

「どうしたの?」「なあに?」

午後、預かり保育の部屋を見に行くと、「どうしたの?」という預かり指導員の先生の優しい声が聞こえてきます。

子どもたちは何かあるとすぐに先生のところに行きます。何かしてほしいとき、困ったとき、あるいは自分で作ったものを見てほしいときなど、子どもたちはすぐに先生のところに行きます。そうすると先生は子どもの目を見て「どうしたの?なあに?」と応えてくれます。特に用事がなくても子どもたちは先生のところに行きます。そうすると



とやっぱり先生は「どうしたの?なあに?」とほほえんでくれます。もうそれだけで子どもたちは幸せでいっぱいになります。こういう温かく迎えてもらえる場所がある、安心できる場所があるということは、子どもたちにとって本当に幸せなことだと思います。

今週の18日の「修了式」で、今年度の教育活動は終わりになります。今年度の預かり保育の利用者数を集計してみました。預かり保育を実施した日が170日で、利用した子どもの数が、延べ1,371人です。多くの子どもたちが、預かり保育の時間を経験しています。

子どもたちは幼稚園の教育時間が終わって、「さようなら。」を言うと、預かり保育の部屋にやってきます。「お願いします。」と言って部屋に入ります。そしてきちんと手指の消毒をして、それぞれ自分の好きな遊びを始めます。塗り絵をする子、折り紙をする子、先生とオセロをする子もいます。何人かで、ブロックを組み立ててリビングや台所を作って、ままごとをしている子どもたちもいます。そういう中で、たった一人で小さなブロックをつないで、プロペラ飛行機を組み立てた子もいます。説明書を見ながら、2日間かけてプロペラ飛行機を完成させました。そして迎えに来たお母さんに誇らしげに見せていました。それぞれが自分の好きなことに夢中になって取り組んでいます。

優しい信頼できる先生がそばにいて見てくれて、自分のやりたいことを存分にやれる。そして友達がいる。年齢の違う子も、女の子も男の子もいる。こういういろいろな友だちと一緒に、同じ場所で遊び、同じ時間を過ごすことを通して、子どもたちは人とのかかわり方を学んでいきます。そうして少しずつ「大人」になっていきます。

2年前に入園してからずっと預かり保育に来ている女の子は、入園したころは、友達がみんな帰ってしまうと寂しくて、先生の膝の上で泣いていたこともありましたが、でも今では先生と二人で楽しそうにお話をして、お母さん、お父さんの迎えを待つことができるようになりました。立派に成長し、その子ももうすぐ1年生です。

預かり保育の先生方には、子どもたちをしっかりと見守り、育てていただきました。本当にありがたく思います。